



12月の行事(進路関係等)

- 1 (火) 第4回定期試験
[11/30(月)~12/3(水)]
- 3 (木) 生徒集会(納め式)
- 4 (金) 生徒懇談期間 [~18(金)]
ブレ演習③ [~5(土)]
大学出張講義①
- 5 (土) 土曜課外②、土曜講座①、塾校学習会②
- 8 (火) 欠試届提出締切
- 11(金) 職業人講話②
ブレ演習③ [~12(土)]
- 13(日) 第2学年修学旅行 [~16(水)]
- 17(木) 第2学年代休
- 18(金) サイエンスフォーラム①(2)
推薦合格者指導③
- 22(火) 40分授業
- 23(水) ● **天皇誕生日**
- 25(金) 終業式 大掃除
学研マーク模試② [~26(土)]
ブレ演習③ [~26(土)]
- 26(土) 学研模試①
- 28(月) 仕事納め
- 29(火) 学校完全閉鎖期間 [~1/3(日)]

※○数字は学年を示します

〈久しぶりの「おのぼりさん」…11・22東京フラサキタ〉

11月21日(土)、東京・御茶ノ水のとあるホテルで開催された業者主催の「進路指導研究会」に参加してきました。この会に参加するのは「初めて」であった私にとって、各都道府県の有名公立高校の進路指導主事が一堂に会する会場で、自分の席を見つけて座るところから戸惑いました。

私事ですが、幼いころに病弱だったせいか、私は今でも引っ込み思案などがあります。知らない人の中に入っていくことには強い抵抗感をありますし、人前で話すことには苦手意識を拭えません。しかし、そんな私も「**年齢を重ねる**」中で、**少しずつ“凶々しさ”というコーティングを纏う術を身につけた**ようです。知り合いもない会場で、席に座って会の始まりを待つ姿に、自身の幼いころを重ね合わせ、今の自分の姿を滑稽にさえ感じました。

会議後、その地に宿泊し、翌日は久しぶりにノンビリした朝を迎えました。ホテルを出る際、「…今日は**自分への御褒美**をあげるか?!」…左に歩くと5分程でJR御茶ノ水駅でしたが、私は足を右に向けました。

普段は機会に恵まれません、知らない町を当てもなく散策するのが好きです。散策を始めた私の目の前には、いろいろな光景が広がりました。

まず訪れたのは東京大学、赤門から入って学内を巡り歩きました。20代に何度か訪れたことのある史料編纂所を懐かしく見ながら、銀杏並木、安田講堂、三四郎池…と歩を進めました。歩くたびに目に付く、多くの記念碑や胸像…この東京の真ん中に広大な敷地を持つ日本の最高学府は、それ自体が文化財でもあることを実感しました。

東京大学を出た後は、**湯島天神、神田明神を巡り、最後に孔子を祀る湯島聖堂**を巡りました。

時間にして3時間程度だったでしょうか。美味しいモノを食べたわけではなく、何か珍しいものを買ったわけでもありませんが、立ち寄った場所や歩いた通りでは、いろいろな景色と出会いました。

“命の洗濯をした”という大袈裟でしょうか。

因みに3年生の一部が挑戦している各大学の推薦入試は11月最終週までに一段落します。私が東京に行っていた2日間にも、各所で推薦入試に挑戦していた生徒がいたはずです。

散策の途中で寄った**湯島天神は菅原道真、神田明神は平将門、そして湯島聖堂には孔子が祀られています**。それぞれの場所で「**合格祈願**」をしたのは言うまでもありません。

JR御茶ノ水駅脇にかかる聖橋の袂には「日本の学校教育発祥の地」の石碑もあります。11月21日(土)・22日(日)は、私にとっては、**縁起の良い土地を歩いた感**があります。



▲東京大学「赤門」



▲東京大学「三四郎池」



▲湯島聖堂「正門」

<南高生に読んでもらいたい一冊>



今回紹介するのは、池井戸潤著『下町ロケット』（小学館文庫、2013）です。これは現在、毎週日曜日 21 時からTBS系の日曜劇場という時間枠で阿部寛が主演している同名ドラマの原作であり、第 145 回直木賞受賞作品でもあります。作者の池井戸潤氏は 2 年前、同じ時間枠のドラマで放映されて大反響を呼んだ「半沢直樹」の作者としても有名です。

「お前には夢があるのか？ オレにはある。」…

元ロケットエンジン研究者・佃航平は、ロケット打ち上げ失敗の責任をとって研究所を退き、佃製作所という親の町工場の経営者としての道を歩む。経営者となってからも、ロケット部品開発の夢を追い続ける主人公と佃製作所に、大手メーカーからの特許侵害訴訟やメインバンクからの取引中止から経営難に陥る中で、更に国産ロケット開発を行う巨大企業が、佃製作所が所有するロケット部品の特許の買い取りを狙う。…特許を売れば窮地を脱することができる。しかし、そこに主人公の夢に対する「こだわり」がある。

「会社とは？」「仕事とは？」「生きるとは？」ということを問いながら、主人公とその周辺が変化していく人間模様にも胸が熱くなります。テレビドラマの影響もあってか、同作の第 2 弾『下町ロケット〜ガウディ編』も最近、本屋さんの店頭でよく見かけます。手に取ってみてはいかがでしょうか。

<進路指導部から発信する「お薦め書籍一覧」>

11月4日(木)に「進路指導部から発信する『お薦め書籍一覧』」とその「趣旨」を各クラスに配付しました。

“(一覧は)関係各社がまとめた過去3年間の大学入試問題に使用された書籍についての資料をもとに新たに作成したもので、本校図書館が所蔵する書籍も示しました。作成した書籍一覧を見ると、大学入試で使用される書籍には文庫や新書などが多く、「新書」は全体の74%を占めること、更に「新書」のうちの**44.6%が岩波新書**であることが分かりました。

「大学入試に出る(出た)から…」という安易な発想だけで読んでもらいたくはないのですが、単に「大学入試」に限ってみても、小論文や面接をはじめ、各教科・科目や関連分野への理解度、あるいは興味・関心を高める際には必ず役に立つはずです。

「新書」は廉価で買える教養書、早いうちから手にとって読むことは、実りの多い、教養豊かな人生を送る上で大切だと感じます。”

今回の配付を通じて、生徒の皆さんが「読書」から新たな価値観に目覚めていってくれることを大いに期待していますし、保護者の皆さんや先生方にも「読書を愛する」文化の推進役になっていただければ幸いです。

「心がほっこりとしたとき」

ある日の二校時が終わるころ、生徒昇降口に体育の授業を終えた二年生の生徒が数人集まっていました。その目の先には、ガラスに衝突して落命したと思われる鳥の亡骸がありました。用事の途中だったので、一番近くにいた男子生徒に「任せでも大丈夫？」と聞いたところ、快く引き受けてくれました。しばらくして、その場に戻ってみると、男子生徒は植え込みの中に鳥を葬ってくれていました。掘った穴に鳥を寝かせ、土を静かにかぶせた後、小石を上置き、その男子生徒は静かに合掌しました。当たり前のことかも知れませんが、早く着替えて三校時に備えなければならぬのに、その生徒は心静かに合掌してくれました。思いがけず消えた、小さな命が救われた瞬間でした。